

- 1 だいまくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは三ぎようめに書き、文しうは三ぎようめの二ぼんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さげて書きはじめ、だんらくごとにぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三ぼんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

() 月 日 曜日

犀ノ島の木

神山小 六年 南 雄大

ぼくは、五年生のときに宿泊学習で、ヤブスズラン科の山に行きました。

今でも覚えているのは、木の枝が横になつてトニネルみたいに見えるたぐりつがです。

この木は、ぼくの二十倍ぐらいの太さで、いつかあからないけれど、半分が折れていました。そして、真ん中には、動物が住めるうなぐらひの大きな穴がありました。一本の木の半分

が折れてなくなつて、残りの、まだ木は生きています。枝がトニネルのようになり、かんばつているようでした。トニネルを通つたら、すっかりふんばつているなあと感じました。

しばらく進むと、フリ橋がありました。ぼくは、高い所が好きです。下を見ると、川が流れていました。大きな岩が、あちこちごろごろしてました。あの川に入って遊ぶで、みたい気分になりました。フリ橋を渡るときは

- 4 、と。は、それぞれ一字にぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなししたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいちくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは二ぎようめに書き、文しよは三ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字きけて書きはじめ、だんらく(こと)にぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそらえましよう。

月 日 曜日

けらけらして、おもしろかっ
 たです。
 ぼくは、六年生になつて国語で「森」
 といふお話を学習しました。そこでは、木が緑
 のコケにおおわれた早蕨がありました。ぼく
 は、まるで屋久島の木を見て
 いるやうでした。
 倒木から栄養をもらつて、木が
 大きくなつて
 いるのも、屋久島でも同じだ
 なあと思ひました。
 た。屋久島の森も何千年も昔か
 ら、ずっと生
 き続いて、次の木へと命をつな
 いでいるんだ
 なあと思ひました。

- 4 、と。は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなししたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)

